

志津川の家Ⅲ 構造見学会

2019年10月27日(日)

10:00~17:00 会場：東温市志津川

(1時間ごとの予約制)

アーキテクト工房 Pure では、

創業以来、高性能住宅以外は建築していません。

そしてこれからも、高性能住宅しか建築しません。

なぜそこまで、高性能にこだわるのか

それは・・・お家は、もっとも快適な場所であると思うからです。

そんなお家を暑くない、寒くない、我慢しなくてもいいように。

それは実はあたりまえのこと。あたりまえのことを、あたりまえに。

そのためにお家の「性能」について譲れません。

今回、開催される構造見学会では、

そんな「性能」について重要な「断熱」「気密」「換気」の3本柱の内、

「断熱」と「気密」について

ご自身の目で見ることのできる見学会となっています。



○断熱とは

断熱とは文字通り『熱』を『断つ』ことです。

お家における断熱とは、中と外との熱の伝わりを断つことを意味します。お家の断熱がしっかりしていると、季節を問わず快適な環境が作りやすくなります。

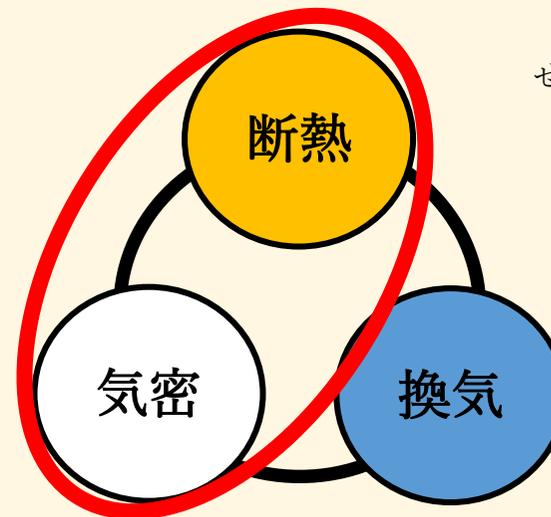
夏には外からの強烈な日射を防ぎつつ室内で冷やした空気を外には伝えません。冬には冷え切った外気から室内の暖めた空気を守ります。

○気密とは

気密性能が高いということは、お家に隙間が少ないということに。

隙間があると、そこから空気が入り出てしまいます。窓や玄関、壁や床、壁と屋根との間、エアコンや水道などの配管、コンセントなどお家には、たくさんの隙間ができやすいポイントがあります。

そのいらぬ隙間を限りなく少なくしていくと・・・気密性能が高まり、冷暖房によって快適な室内環境を保つことができます。



ぜひご自身の目でお確かめください！
お待ちしております。

ピュア

有限会社 アーキテクト工房 Pure

〒791-0243 愛媛県松山市平井町甲3-1

TEL : 089-976-3600

E-mail : asp@studiopure.jp

HP : <https://www.studiopure.jp/>

pure house
asp

ほうす
House de Organic
ホーがにっく
家につなぐたいせいのプロジェクト

お問い合わせ・申し込みは、[こちら](#)

Click



○みどころポイント

完成してしまうと見ることのできない部分。そういった部分に「性能」についてのポイントがたくさんあります。

そんなポイントをいくつかピックアップして紹介致します。

○断熱施工

断熱施工のポイントは、断熱材は詰めるのではなく、**納める**ということです。

断熱材の効果を最大限に発揮するには、中の空気層をつぶさないことが重要です。断熱材の形を変えず、壁と屋根に納めるように施工することがポイントです。

断熱材としてロックウール 60K を使用。屋根に **300 mm**、壁に **100 mm** が施工されています。



○気密施工

お家の隙間を無くすために気密シート・テープの施工を行っています。断熱ができていても、空気が通り抜ける隙間があると、断熱の効果は期待できません。

また、気密性は施工のよし悪しに大きく左右されるため、気密シートやテープが隙間やしわ、よれなくピシッと施工されていることがポイントとなります。



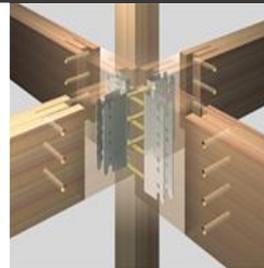
○細かい所の断熱施工

断熱材は長方形なのですが、納めるところがすべてその形とは限りません。そのため断熱施工は、まるで立体パズルかのように形に合わせてカットし、納めていきます。

家の外と中の熱の伝わりを断つためにも、外と接している壁や屋根に、隙間なく断熱材を納めることがポイントとなります。

○耐久性・耐震性

地震や台風能耐える強い家づくりのため、金物工法を採用しています。従来の木造の工法は、お家を支える柱などを削ったり、くり抜いたりするので、そこがお家の「弱さ」になる可能性があります。金物工法にすると削られる部分が最小限にすることができ、強固なお家づくりを実現することができます。



○樹脂トリプルサッシ

弊社では、樹脂トリプルサッシを標準仕様としています。

お家の中で、最も熱が入り出すのが「窓」になります。

樹脂トリプルガラスにすることで、熱の出入りをしっかりとコントロールしてエネルギーを上手に使う、快適な室内環境を保つことができます。



○細かい所の気密処理

気密性を高めるには、細かい隙間を無くすこととシートが**つながっている**ことがポイントです。

木部や開口部と気密シートの取り合い、開口部の回りなど隙間が生じやすい細部や後から塞ぐことのできない隙間をきちんと気密処理を行っています。



○壁の中の納まり

壁の内が見えなくても分かるように施工を行っています。右の写真は、電気の配線が通る高さを 500~550 の間に決めているので、見えなくなっても場所が分かるようになっています。気密シートに穴が開くと隙間になってしまうので、壁の中が分かるようにしておくことで、**だれでも簡単に**手入れできるように。

